

式辞

ようやく春の兆しが見えだした本日ここに来賓、保護者の皆様の御臨席を賜り、無事に129名の生徒に卒業証書を授与することができたことを大変うれしく思います。

卒業する皆さん。ここからが本番の人生です。これからは皆さんを縛る時間割も校則もありません。自らが選んで決めた進路を、自分自身で判断しながら、進んで行ってください。

決して簡単な道ではないはずです。思い描いていた職場や学校ではないかもしれません。挑戦し、失敗をすることもあると思います。予期しない病や事故などに直面することもあります。そんな時、どうか覚えていてください。避けがたい運命に直面した時でも、少なくとも「その時、どのような態度をとるかを決める自由」は残されています。運命は変えられません。でもそれに対するあなた自身の態度は変えることができます。態度を決めるのはあなた自身の責任です。

人々が見ているのは「その人に何が起こったか」ではありません。「その時どうしたか」です。運命を嘆いて諦めるのではなく、変えることのできない他者や過去のせいにするのではなく、何が起きてもしっかり前を向いて、自分と自分の未来を変えてください。そういう姿を見ていてくれる人が必ずいるはずです。そして、必ず応援してくれます。世の中とはそういうものです。

「幸せ」は誰かが与えてくれるものではなく、自分で生み出すもの。自分で感じ取るものです。私は、卒業する129名の生徒が、これからそんな人生を歩んで行ってくれることを心から願っています。

この3年間、多くの理不尽を飲み込みながら、それでも皆さんはのびやかで明るく元気でした。校舎を歩くと、いつでも笑い声が聞こえてきました。合宿や練習試合が出来なくても嬉しそうに部活動をする姿がありました。学校行事も制約が沢山あるのにびっくりするほど楽しんでいました。コロナに翻弄され、大人が皆、疑心暗鬼になる中でも、互いを信じ、安全性の存在しない状況の中で安全を信じて学校生活を送ってくれました。我々大人は、皆さん達の根拠のない自信や明るさに何度も救われました。この時代を後の世がどのように検証するかはわかりません。けれども一人一人の生徒が制約の中で、精一杯高校生活を過ごし、そして希望を持って高校を巣立っていくことは紛れのない事実です。コロナ禍の卒業生だからこそ、きっと逞しく次の時代を切り拓いていくような気がします。

3年生の皆さんそして保護者の皆様、改めて御卒業おめでとうございます。これからの人生が挑戦と喜びに満ちたものであることを心から願って、令和4年度卒業証書授与式式辞といたします。

令和5年3月1日 大湊高等学校 校長 千葉栄美